



とおるのトーク

このコラムが印刷されて、皆さんが読まれる頃はクリスマスですね。ジョン・レノンのハッピークリスマスは今年も街中に流れてるかな？ベトナム戦争が泥沼化してた年に書かれた曲で副題には“war is over”となっている、ジョンの平和への願いが伝わってくる曲だと思う。

今年も世界中で流れたらいいな。

締め切りがあってこれを書いてるのは11月だけど…。いっとき寒かったものの、今日も小春日和の暖かな日になった。ハロウィンが終わるとセブンのおでんや豚まんが食べたくなる。おでんはやはり大根がうまい。

なんでも温暖化のせいにするつもりはないが、近年季節の変わり目が年々判り難くなっているような気がする。あれは、忘れもしない10月17日、前日まで夏の陽気で衣替えを怠っていた。夜、Disney On Classicから帰宅して半そでパジャマに夏掛けで寝たぼくは寒くて眠れなかった。立冬もまだなのに真冬の気温じゃん(泣)。てな訳で、翌日早々倉庫からファンヒーターを出したのは言うまでもない。今年は、ガソリンもだけど灯油が高くてどうしましょ、と思う。と同時に、地球温暖化をここまで進めた結果としての原油高騰ならば、散々贅沢に地球資源を使ってきた世代としてはツケは払わなきゃいけないよね。今頃になって脱炭素化社会とか持続可能なエネルギーというのってさあ、どうよ、なんか遅すぎるんだってば。

10月には参議院議員補欠選挙と衆議院議員選挙があった。いつものように当然投票に行った。衆議院はフタを開けて絶望した。野党が振るわず自民のやりたい放題の政治が続きそうだ、うんざりするぜ。

ぼくが入れる票は、選挙制度が中選挙区から小選挙区になってからは死に票になってばかりだ。まつとうな政治を言う前にまつとうな選挙制度に戻してほしいものだ。ついでに、もう少しましな公約で選挙戦してもらいたいね。野党が共闘した消費税5%にしてもホントの困窮者は物が買えない訳だな。これじゃ自民と変わらない。

2年以上続いたコロナ禍を経てからというもの、以前にもまして「同調圧力」について考えることが多くなった。例えば、マスクもつけるのが当たり前になった今、義務として着けざるを得ない方は沢山いるし、マスクは苦しいのを身に染みて判るから尊敬の念も持っている。反面、同調圧力だけでつけてはいないだろうか。ホントはつけたくないけど周りの目が気になるだけとかじゃないか。周りに合わせときや波風立てることもない村社会に生きている身としては仕方ないとも思う。が、多少は「何故だ?」「何か変だな」と疑う気持ちを持っていたいと思うよ。日本人って同調圧力に弱すぎだよ。轟躰(ひんしゅく)を買う覚悟であえて書くぼくである。マスクが無くなる日常が来ることを願ってコラムを終わる。

文：11月11日 静岡障害者自立生活センター 橋本とおる

【編集後記】今年も早いもので、もう年末ですね。寒くなってくるとキーンとした夜の空気の中月や星がきれいで、つい寒さを忘れて見入ってしまいます。先月の部分月食も天気に恵まれ見た人も多いのではないでしょうか。今放たれた光が地球に届くころ、どんな人たちがどんな思いでその星を見るのでしょうか。

広報委員：鈴木梨可



ひまわり通信

Vol.7 2021.12.

“どんなに重い障害があっても地域で共に生きる社会”を目指して

発行：特定非営利活動法人 ひまわり事業団

静岡障害者自立生活センター

Tel: 422-8006 静岡市駿河区曲金 5-4-58
TEL: 054-288-6068 FAX: 054-287-4922
E-mail: himawari@scil.jp HP: <https://www.scil.jp>

編集：ひまわり事業団 広報委員会

用宗、ぶらり男三人旅



旅人
すきやま げんた
杉山元太さん（右）
さいとう やすし
齊藤裕士さん（左）
撮影者が筆者



静岡市駿河区用宗。ふるくは戦国、今川→武田→徳川と、時の権力者に仕えた向井氏の居城である「持舟（もちふね）城」があったことが、現在の地名の由来になっているそうです。

つい最近まで、「寂れゆく昭和の港町」の見本の様なアンニュイな雰囲気を醸し出していましたが、ここ数年で、にわかに「若者に人気の『映え』スポット」として脚光を浴び始めているとのこと。是非ひまわり通信で特集したいと、勇んで行って参りました！…男三人で…（笑）。

さてさて、どんな旅になるやら…。

上ヒ 白さんは用宗と聞いて、まず何を思い浮かべるでしょうか。釣りが好きな筆者は何と言っても用宗港！そしてシラス漁とシラス丼！！です。

ということで、お昼の良い時間に用宗港に到着した我々は、まず港内の「漁港直営どんぶりハウス」へ。当日は暑すぎず寒すぎず、日差しが温かいまさに小春日和。残念ながら当日は漁が行われなかつたようで、

目当ての生シラスはお預けとなってしまいましたが、釜揚げシラスと漬けマグロがもりもり載った「用宗丼」に舌鼓を打ちます。

さすが本場、用宗。適度に塩の効いたうま味たっぷりの釜揚げシラスは、噛む度に爽やかな海の香りが鼻に抜け、魚好きにはたまらない味わいでした。



用宗港の新名所
まるで「ポートダジュールのよう？」



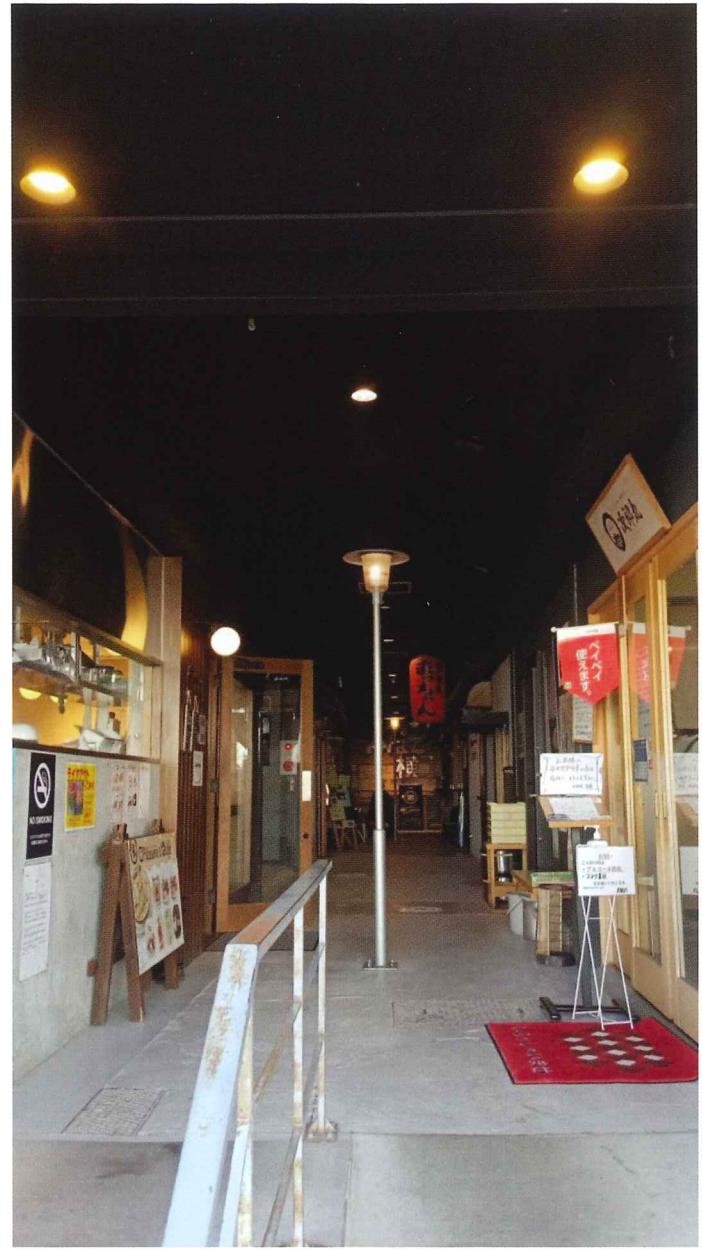
食 後の腹ごなしにと向かったのは、用宗港の南西に位置する用宗海岸海水浴場。静岡市内では貴重な海水浴場で、今年の夏はコロナ禍の中でも2年ぶりに海水浴を楽しむことが出来たそうです。駐車スペースでもある防波堤上からの景色は、暖かい日差しと穏やかな潮騒も心地よく、心が自然と落ち着くようです。用宗堤防の東側に遠く見えるのは伊豆半島。西を望めばドライブルートとして有名な大崩海岸、その向こうには焼津港まで見通すことが出来ます。天候にも恵まれ、雄大な駿河湾の姿を堪能することが出来ました。

さて、お腹も落ち着いて潮風も存分に浴びたところで、我々が次に向かったのは「用宗みなど温泉」。2018年12月にオープンしたまだ新しい温泉施設で、なんと！用宗港の中にあるんです。しかも！地下50mから汲み上げた天然温泉！否が応にも期待は高まり、鼻息荒く乗り込んだのですが……。

結論から言うと、「車イスや杖を使って歩行する人の入湯は、お断りさせていただいている」とのこと…。

どうやら設備環境の問題で安全確保が難しいから、というのが理由の様です。





みなと横丁内

今回の旅人である杉山元太さんの「デザートが食べたい！」という希望に沿って、我々が入店したのは「Patisserie & cafe MARU MER（マル・メール）」。

正直、大人の男性が三人で入るのは勇気が要るような、しっとりと小洒落た店内。少々気後れしながらも、「こういう機会でもないと外で甘いものを食べることはほとんど無い」という元太さんに触発され、これまたお洒落なモンブランとベリーのパフェセットを注文。モンブランの上の黄色い果物は食用ホオズキですって。なにそれお洒落。セットのクッキーも可愛い。お洒落。お洒落しか言葉が



【前ページより】

本当は浴場までのアクセスも施設の方に助けて欲しいところを、介助者2人態勢で全てこちらで対応するとお伝えしてもみましたが、残念ながらOKは引き出せず…、涙を飲んで諦めることに。元漁協の設備を利用した、全国でも珍しい（唯一？）形の温泉、入ってみたかった…。

余談ですが、施設内には美味しい唐揚げが食べられる「アオサギ食堂」や、用宗で醸造されたクラフトビールが飲める「ウエストコーストブリューリング」も併設されているとのこと。こちらは車イス利用者でもお洒落な雰囲気で用宗グルメを楽しむことが出来るそうなので、是非今後、身体障害当事者も温泉を楽しめるように、バリアフリー化を進めていって欲しいと要望を伝えて、お暇しました。

気を取り直して向かった先は、用宗再興のシンボルとも言える、新生「みなと横丁」。用宗港にそぞく小坂川の目と鼻の先という立地に、40年ほど前から存在した「シーサイドみなと横丁」、2018年以前に用宗に行ったことがある人なら目にしたことがあるんじゃないでしょうか。うらぶれた昭和の匂いがプンプンしていた（失礼）かつての面影はどこへやら、とってもモダンで「映え」な集合飲食店舗に生まれ変わっていました。

出てこない。これぞ「映え」。映えてないなら筆者の写真撮影の腕です。悪しからず。

季節の素材を使ったパフェは、お味も抜群。凝



った食レポは出来ない男性三人、無言でぺろりと平らげました(笑)。帰りにはお土産に、素敵な包装を施されたクッキーも購入。いやはやこれは確かに、若い人が楽しめる場所になっていますね。やるな、みなと横丁。やるな、用宗!

的は取材とトイレタイム。実は用宗地区、バリアフリーのトイレが少なく、飲食系店舗のトイレも車イスでのアプローチが難しいものがほとんど。その中でハットパーク用宗には、車イスでも利用可能なトイレが設置されており、今回の旅ではとても重要なスポットと言えます。施設としては、様々な飲食系専門店をはじめ、オーダースーツやエステのお店まで入っていて、もっと時間をかけて見て回ったかったと思える内容。ただ、残念ながらエレベーターが設置されていないため、車イスでは2階部分の店舗にはとても入りづらいのがもったいない。

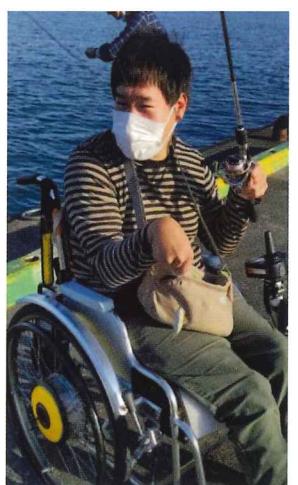
そんなこんなで最後になりましたが、今回のメインイベント。釣りをしたことがないという元太さんを、筆者が無理矢理「釣り接待」(笑)。用宗堤防の東側、「用宗フィッシャリーナ」で竿を出すことにしました。

他の釣り客が「今日は全然ダメ」というのに若干不安になりながら、岸壁に釣りエサを付けた針

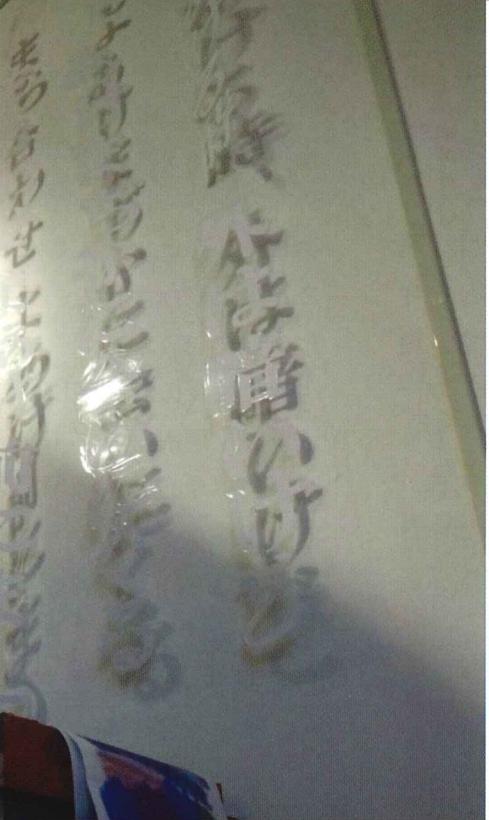
さて、午後のおやつも済ませ、次なる目的地は「ハットパーク用宗」。先ほどの用宗堤防から海沿いに西に約300m行ったところに位置する、「月イチ行けるリゾート」をコンセプトにした小規模商業施設です。

を落とします。日も傾き風も強くなってくる中、待望のアタリが！短い時間ではありましたが、初めての釣りで、見事2尾の魚を釣り上げることに成功し、なんとか元太さんも釣りの楽しさを感じることが出来たようで、筆者もホッと胸をなでおろしました(笑)。

港町独特の雰囲気に、新たにモダンな風を吹き込まれた用宗。皆さんも、是非脚を運んでみてください。今回の旅は用宗地区の魅力を知ると同時に、再開発地域のアクセシビリティ、バリアフリーの課題も強く感じる結果となりました。まだまだ不便さはありますが、これからもっと盛り上がって欲しいなと感じる旅でした。



文：劉瑛哲



静大生×それ アートコラボ企画

静岡大学（以後：静大）教育学部で美術教育を担当されている高橋智子准教授と、そこで学ぶ学生さんとの企画展が実現しました。

今年の4月から授業でのやり取りが始まり、最初の授業で、それいゆの活動の様子を説明した後、実際に学生さんがそれいゆを訪れ、作品を見たりそれいゆのメンバーと話をしたりする時間がありました。

そこから受けたイメージから、学生さんが個々に企画展のコンセプトや展示の案を考え、何度も意見を交換する中で、今回の企画展が実現しました。

企画展は、前後半と3週間ずつ静大の図書館ギャラリーで行われることになりました。

前半は「アートのある日常—もうひとつの帰り道—」というテーマで、路地裏に迷い込んでいく世界観が出来上りました。

また、後半は前半に迷い込んだところから開けていく様子を、「NEW START LINE 君を生きているか」というテーマで表現しました。START の文字の中に ART が入っていることに学生さんが気づき、アートから始まることやこれからの予感を感じさせる展示となりました。

展示期間中は、学外の方が大学に入ることができなかったため、それぞれの展示期間中にオンラインのトークイベントも開催しました。

それいゆと大学を ZOOM でつなぎ、限定配信で今回の展示の様子や裏話等、写真を交えて聞いていただきました。【写真1】

それいゆの表現活動が始まって4年を迎え、描くことの意味や描き続けていくことで起こる変化、また活動を通して私たちが社会に対して何を還元していくか・・・等々、改めて考える機会となりました。

文：鈴木梨可





秋も深まり「落穂拾い」?

せっせと公園掃除に励みながら、「焼き芋も食べたい」と呟き、頑張っています。

ななーらが小鹿2丁目でスタートして、早8年が経ちました。2~3年前から入居者一人ひとりも町内会費を納め、町内の一員として過ごしています。

一番の関わりは毎年行われていた防災訓練への参加でしたが、コロナの感染を受けて訓練規模は縮小されて見知った顔を忘れてしまいそうでした。が、前回の機関誌で町内清掃の様子を取り上げ、「お手伝いします」と載せた所、町内の方からお声掛けをいただき、毎月のように近くの公園へ清掃活動に参加させてもらっています。町内

の方からは「人手不足で助かる」と、嬉しい声を掛けてもらえる為、ななーらのメンバーも毎回楽しく参加しています。内向的で部屋から出たがらなかったメンバーも感謝の言葉に気を良くしたのか、毎回参加するようになりました。

夏には草むしりだった清掃活動も、今では落ち葉拾いとなりました。芸術の秋と言えば、ミレーの「落穂拾い」を思い浮かべるときいきや、よく働き、よく寝て、よく食べる、ななーらメンバーは、落ち葉を集めながら「焼き芋たべたいな~」と呟き、掃除に励んでいます。



コロナが落ち着いてきたので、久しぶりに外出しました。

久しぶりの余暇活動で何処に出かけようか?の、問い合わせに、ななーらメンバーから「美味しいものを食べに行きたい!」焼肉、お寿司、ラーメン等々…コロナ禍で外出を控えていた為、大盛

り上がりでした。多数決で、お寿司に決まりました。焼津市のLINEクーポンを利用して、お寿司を格安でいただくことができ、食後は、近くの焼津漁港親水広場「うみしる」と「ふいっしゅーな」に行き、皆で湾外沿いの散歩を楽しみました。散歩の途中、飼い主から逃げる柴犬と遭遇し、その様子をじっと見つめるななーらメンバーでした。

文:清水かおり

久しぶりのボッチャ市民交流会

今回は、ボランティアの学生さん達も加わり、いつも以上に賑やかで楽しい交流会となりました。

毎年恒例のボッチャ市民交流会(小学生対象)も、今回で4回目!…のはずがコロナの影響で当初予定していた8月には開催出来ませんでした。楽しみにしていた利用者さんも多くがっかり、と言った状況の中で11月に新たなチャンスが舞い込みました。なんと!コロナも落ち着き始めた11月に、改めてボッチャ市民交流会を行うと言うのです!その報告を受けた私たち生活介護さにいも喜んで参加させて頂くことに決定しました。

今回は3名の利用者さんと県立短大の在校生4名にもボランティアとして参加して頂きました。普段は障がいを持つ人と接する機会があまり無いようで、最初は緊張した面持ちでしたが、ボッチャを通じ次第に緊張も和らいだ様子で途中からは凄く良い笑顔を見せてくれました。

いよいよ本番当日。さにいの利用者さんが大活躍!と言いたい所でしたが、今年の小学生たちも中々に手強く一筋縄では行きません。皆が上手く、飲み込みも早い。何より負けん気が強く、そ

れが利用者さんにも良い影響を及ぼし白熱した試合展開となりました。結果的には負けてしまいましたが、貴重な体験になったこと、何より周辺地域で生きる人たちとの交流、という目的は果たせたかと思います。

今後もボッチャと言う“誰もが”楽しめるスポーツを通じて、障がい者と健常者の垣根を越えた交流が出来ればと考えています。その為にも生活介護さにいは率先して様々なイベントに参加し、先駆者としての役割を果たそうと思います。

文:吉岡佑真

寄付物品の募集

生活介護さにいでは、年に2~3回バザーを開催しています。衣類や生活雑貨品等の寄付物品を募集しています。ご協力いただける方はご連絡ください。 054-287-5001



ワカイチカラ

ひまわり事業団の介助派遣サービスひだまりで活躍している学生ヘルパー。
アルバイトに選んでくれて、ありがとう。でも、何でヘルパーになろうと思ったの?
自分が大学生の頃って…ヘルパーやってどうだったが、少しお話を聞かせて。



しばた あ ゆ
柴田 彩佑 さん
愛知県岡崎市出身
ヘルパー歴 2年4か月

●静岡大学 人文社会学部 4年



たかはやし けいた
高林 恵多 さん
静岡県静岡市出身
ヘルパー歴 1年4か月

●静岡大学 人文社会学部 2年



しばた な つ き
柴田奈津希 さん
岐阜県羽島郡岐南町出身
ヘルパー歴 3か月

●静岡大学 理学部 2年

ひまわり事業団を知ったきっかけは?

ヘルパーってどんな印象だった?

柴田彩: ゼミの先生の授業で、ひまわり事業団の方がゲストスピーカーとして授業にきたのが知ったきっかけ。それまでは建物は知っていても、何をしている所なのか全然分からなかった。

高林: 知人の紹介。訪問介助って、老人ホームのようにお宅訪問して家事をするものだと思った。

柴田奈: 資格が無くとも働ける介護関係のバイト先を調べていて、ひまわり事業団のホームページにたどり着きました。

何でヘルパーをアルバイトに選んだの?

柴田彩: 以前していたアルバイトをそろそろ替えようと思っていた時期で、障害って何だろうと考えていた時期でもあったので、直接、当事者に接すれば何か分かるような気がして始めました。

高林: 率直に、面白そうだから。私生活で障害者と触れ合う機会がなく、このままでは一生機会がないのかもっと思い始めて。

柴田奈: 周りにバイトでヘルパーをやっている友達がないからこそ興味があつたのと、介護の技術を習得して祖母の介護をしたいと思ったからです。

他のアルバイトと比べて良い点・大変な点って どんなところ?

柴田彩: 良い点は、学べる所が多い、繁忙期がない所。大変というか悩んだ所は、利用者さんの生活の中で快適な距離感を見つけること。元々コミュニケーションが苦手だったので、どう話したらいいか悩みました。

高林: いい点は、飲食系のように、客と店員といったかしこまった関係にならないこと。大変な点は、相手の返事が曖昧な時に、これでいいのかと迷うこと。

柴田奈: 他のアルバイトよりも時給が良く、シフトの調整がしやすいところが良い点だと思います。様々な利用者さんに応じて、また同じ利用者さんでもその日の状態に応じて、臨機応変に介護をすることが難しい点だと思います。

ヘルパーの仕事をしてみて、どんな感じ? 障害者感の変化ってある?

柴田彩: ヘルパーはもちろん介助する人だけど、利用者さんの生活と一緒にする人だからお客様というのも少し違うような気がして、コミュニケーションのとり方は大変でもあったし勉強にもなった。ヘルパーを始めてから、障害をもつ人を「障害者」としてではなく、1人の人間として好きなものとか知りながら関わることができたので、いい意味で障害というものを気にしなくなった。

高林: 自閉症で口数の少ない人は自分を主張しない人が多いのに、口数は少ないながらも、はっきりと考えて自分の意志で行動していることが強く印象に残りました。

柴田奈: 体力的に大変な仕事であるのはもちろんのこと、下手をしたら利用者さんの命に関わることもあるので、常にいろんな方面に気を配る必要のある仕だと思います。またヘルパーを始めてから、普段の生活の中で、車いすの方やヘルプマークを付けている方を少し気にかけて見るようになるなど自分の視野が広がったような気がします。

利用者との面白いエピソードがあれば教えて?

柴田彩: 利用者さんとの外出する機会は、新しい発見も多く楽しいです。利用者さんの人間関係とか。こういうものが好きとか。深く関わって、慣れないところは多いけど楽しいと思います。

高林: 薬の時間に好きなテレビ番組を見ていて、そこに出演していた好きな俳優について話をするのは楽しかったです。

柴田奈: 好きなグループは違いましたが、利用者さんとジャニーズの話に花が咲いたのが特に印象的です!

いろんなバイトがある中、
障害ヘルパーを選んでくれてありがとう。
この経験が、今後、障害者の人達との関りに
繋がってくれたら嬉しいです。
当事者より

⇒ 介助派遣サービスひだまりでは、ワカイチカラも募集しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。 054-287-1230

友達もヘルパーに誘ってみようと思う?

柴田彩: 既にアルバイトをしている友人が多いので悩みますね。ヘルパーが不足しているとのことなので、何かできたらと思います。

高林: 思いますね。知らないモノは線引きして遠ざけてしまいかがちですが、その内を知ることで印象が変わって深く関わられるようになると思います。

柴田奈: 中途半端な気持ちでは出来ない仕事だと思うので、本当に介護や福祉に興味がある友人であれば、誘ってみようと思います。

この経験を機に、

更に福祉業界に携わってみたい?

柴田彩: 元々、大学の勉強で障害福祉は興味があつてやっていました。やっぱり実際にヘルパーとして関わると、現状の難しさは沢山見えてきました。でも、やっぱり障害福祉の分野が好きで面白いという気持ちはあるので何かしらの形で関わっていきたいと思います。実際に自立生活をしてる障害者の空気感を肌で感じられたのは、今後活かされるところだと思います。

高林: 一般的の営業職をしたいと思っていたので、そこに気持ちの変化はありません。でも、学生の間はヘルパーを続けてみたいと思います。

柴田奈: まだ経験が浅く、目の前の介護に必死なので、もう少し慣れてきたときに考えてみたいと思います。

令和3年度 定期自立生活プログラム を開催しました。

令和3年10月6日（水）～11月10日（水）



昨年度は新型コロナウィルス感染拡大により、世の中はすべて自粛、自粛、自粛となり、ピアカンや I LP もすべて自粛となつたため、今年度が2年ぶりの開催となりました。

とはいへ、コロナ禍は現在も真っ最中（10月以降は収束に向かっていますが）。当初は感染予防に最大限、気を配りながら、オンラインを基本として開催を企画しました。しかし、受講生（2名）のオンライン環境が整わないことや、共に静岡市内在住であることを考慮して、1名は対面で実施することにしました。オンラインで受講していた1名も、自宅の接続環境が不安定になることが多くまた、車の運転ができるため、2回目以降は事務所へ来所し受講することになりました。私たちも、オンラインでの I LP は初めての取り組みで、参加人数を抑えての実施となりましたが、結果、今まで通りの対面で行うこととなり、2名の参加者にじっくり向き合って話ができたことは、良かったと思います。

今回は全6回プログラム

- 第一回 リレーション、目標設定
- 第二回 介助者との関係
- 第三回 自立生活ってなに？①
- 第四回 自立生活ってなに？②
- 第五回 家族との関係
- 第六回 まとめ、交流会

文：大川速巳

介護職員 たんの吸引等研修 (3号研修) を開催しました。



去る11月19日、当団体が主催する「介護職員たんの吸引等研修」（通称「第3号研修」）が開催されました（今年度3回目）。

県内各地から集まった16名の受講生たちは、講師である看護師の、ふだん聞き慣れない医療用語が入り混じった話に真剣に耳を傾けていました。

人工呼吸器使用者など、医療的ケアの必要な重度障害者が地域で生活をする上で欠かすことのできない医療的ケア。ヘルパーがこうした医療的ケアを提供するためには、国が定めた一定の研修を受講する必要がありますが、当団体が開催する研修がこれにあたるのです（ただし、平成28年度以降の国家試験に合格した介護福祉士は、その資格をもって、医療的ケアが可能になっています）。

今回は、そもそもこの研修がどういうものかについて少しご説明したいと思います。

平成24年、国は「社会福祉士及び介護福祉士法」という法律の一部を改正し、たんの吸引や経管栄養といった一部の医療行為を、正式にヘルパーの業務として認めることにしました。

「一部」とは、具体的には以下の二つの行為になります。

①たんの吸引

（口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部）

②経管栄養

（胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養）

では、こうした医療的ケアが合法化になる前は、いったいどのような状態だったのでしょう？

実は、法制化以前においても、人工呼吸器使用者等の在宅生活を支援する現場では、家族の負担を軽減する目的もあり、一部でヘルパーによるたんの吸引が行われていました。

当団体（静岡障害者自立生活センター）においても、創設者兼代表であった渡辺正直（わたなべまさなお）自身が、24時間介助が必要な進行性筋ジストロフィーで、人工呼吸器使用者であったため、ヘルパーは常時たんの吸引をせざるを得ませんでした。

厳密には違法行為とはわかっていたものの、目の前に、たんが詰まって苦しそうな表情の利用者がいるのですから、「違法だから、ヘルパーはできない…」などと考える余地さえなかったのです。

平成24年、介護職等による医療的ケアが法制化され、ようやくヘルパーも正々堂々と医療的ケアが出来るようになりました。

以来、当団体は、自らが研修機関となって「介護職員たんの吸引等研修」を積極的に開催しています。当団体がこの研修に力を入れる背景には、「地域に、医療的ケアが出来るヘルパーをたくさん増やして重度障害者が住みやすい社会をつくりたい…」という願いがあるからです。

しかし残念ながら、この研修を開催している機関は、当団体を含め静岡県内にまだ2～3カ所しかないのが現状です。

もっと多くのヘルパーに、医療的ケアの技術を身に着ける機会が与えられるといいですね。

文：奥村譲

ぼくらの逸品

この機関誌の企画会議で、今度の「ぼくらの逸品」で誰を紹介させてもらおうか?って話になった時に、「凄いバイク乗ってる人いるじゃない?あの人のインタビューとれないかな?」って誰かが言い出した。「あー、車イスごと乗り込めるバイクの?」って。名前は分からなくても、静岡市内に住んでいれば一度は颯爽と走る「スゴイ・バイク」を見かけたことがあるはず。

幸い、この「スゴイ・バイク」に乗る人を知る職員がいました!!早速、取材を申し込み、快く引き受けてもらっちゃいました。

山崎さん、思いっきり自慢しちゃってください!!

静岡市駿河区在住

やまざき かつみ
山崎 克己さん (64歳) 脊髄損傷



指定特定相談支援事業所にて相談支援専門員として従事。現在の社会福祉法人ピロスに、前身の「とど授産所」時代からの所属(20年)その後は、就労B型を経て、計画相談のスタートの平成25年~現職に。現在約180名の契約者がおり、日々奮闘中。

愛用のバイクについて

厳密には、バイクではなく、車扱い(小型特殊)。そのため、普通免許で運転可能です。だから、ヘルメットもいりません。購入・愛用して10年くらい。利用のきっかけは、2011年に褥瘡からの骨髄炎を罹患。以降、左足がまっすぐにならず、車の運転ができなくなり、当時の仲間から「こういうのがある」と紹介され、購入し、そこから現在プライベートも、仕事のときも、この車両を愛用しています。あれに乗っていると、『元々バイク

乗りか?!』と言いますが、元々は原付バイクに乗る程度です(笑)残念ながら、今は購入できません。(似た車両で、車椅子のまま運転できるバイク・コアラという製品もある)

自分は2台持ちで、仕事、プライベート共に、雨でなければこれで移動しています。部品交換などはメーカーでアフターフォローと電動自転車の販売店で修理を依頼している部分もあります。動力はバッテリー。1台に2組(計4本)搭載し、1組2本で20キロくらい走行可能であるため、

清水区もいつもこれで向かいます。4時間で充電できるため、終業時に充電し、翌日にも続けて使用できます。制限速度が40キロであるため、残念ながら、バイパスや高速道路は走行できません。市内を移動するときにも、坂道の上り下りも問題ありませんが、スピードが落ち、後続車への影響を考えて、2車線ある道路を選んだり、ルート選びは考えています。

実際の運転の様子も見せてもらいました!

(詳しくは動画で) ←以下のQRから見てね!

乗り込むときには車体が後方に傾き、スロープ状。角度も緩やか。ハッチを下げるとき、車イスもロックされるため、走行中に車イスが動くこともない。バッテリー稼働なので、エンジン音などするわけなく、とても静か。運転は、原付バイクと同じ要領で、スロットル操作で速度を調整。バックもボタンで切り替えできる。

愛車の魅力は?

何といっても乗り込みやすさ!相談で外出すると、1日数件回ることも日常です。車で移動したとして、乗降を何度もすることとなり、かなり体の負担がかかります。車椅子ごと乗り込める車もありますが、車を改造するだけで600万円ほどかかり、元の車両もワンボックスカーなど、車体が大きくなります。これは、車イスのままスロープを上り乗車可能。本体も70万円と現実的です。

そして、コミュニケーションツールになっている一面もあります。信号やコンビニなどで止まっていると、珍しそうに見ていたり、話しかけられたり、以前は走っているところを動画を撮りたいと言われたり、声をかけられることも多くあります。所有しているのも市内に2人だけだから、珍しいのでしょうか。

駐車禁止除外指定車としても使用でき、小回りが利くため、行動しやすいのも魅力の1つです。利用者さん宅の駐車場に停めさせてもらうことが多いので、仕事の相棒です。文:宋裕子

